

## 千葉県社会福祉事業団の自主事業における不祥事の発生及びその後の対応について

平成 26 年 9 月 11 日  
 千葉県社会福祉事業団  
 0438-62-2722  
 千葉県健康福祉部障害福祉課  
 043-223-2352

平成 26 年 8 月 30 日（土）、千葉県社会福祉事業団が自主事業として運営するアドバンスながうらにおいて、利用者に蹴られた際に、職員が利用者の頬を反射的に平手で叩くという事案がありました。

本事案については、事業団において利用者等に謝罪し、職員の処分等を行うとともに、再発防止策を講じているところです。

事業団として、運営改善に向けた取組みを進めている中で、このような不祥事により利用者及び保護者等関係者の不安を招く事態となったこととお詫びいたします。改めて、利用者の障害特性に応じた支援のあり方の見直し・改善に取り組んでまいります。

県においても、事業団からの速やかな報告を受け、現地調査を実施して事業団に対し改めて改善指導を行うとともに、「千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会」委員に報告しました。

引き続き、県が積極的に事業団の運営に関与し、事業団の見直しの取組みを進めてまいります。

## 1 事案の概要

- ・アドバンスながうらにおいて、男性職員が、無断で外出しようとする男性利用者を止めようとした際、利用者から足を蹴られ、利用者の頬を反射的に平手で 1 回叩いてしまった。
- ・利用者に外傷はなく、利用者やその身元引受人は当該職員及び施設長からの謝罪を受け入れている。
- ・事業団においては、直ちに内部調査及び利用者の身元引受人・関係機関等への報告を行い、外部委員も参加している事業団虐待防止委員会の意見を踏まえ、9 月 8 日付けで当該職員及びその管理監督者への処分を行った。

## 2 主な経過

8 月 30 日（土）

- ・アドバンスながうら男性職員 1 名が、無断で外出しようとする男性利用者 1 名を止めようとした際、当該利用者から足を蹴られ、当該利用者の頬を反射的に平手で 1 回叩いてしまった（その後、当該職員は当該利用者から再度足を蹴られた。）。
  - ・当該職員は叩いた後直ちに事実を報告し、サブマネージャー及びリーダーが当該職員及び当該利用者に対する聴き取りを行うとともに痣等の外傷が無いか確認し、聴取結果等について施設長へ報告した（当該利用者及び当該職員ともに、痣等の外傷はなかった。）。
- この際、当該職員と当該利用者がお互いに謝罪した（当該利用者は「自分も蹴ったから」と当該職員の謝罪を受け入れた。）。
- ・施設長が、理事長及び事業団事務局へ報告し、事務局が県へ報告した。

8月31日（日）

- ・施設長が、当該職員及び当該利用者に対する聴き取りを行うとともに、改めて外傷が無いか確認した。この際、当該職員に対しては厳重に注意し、当該利用者に対しては謝罪した（当該利用者は施設長の謝罪を受け入れた。）。

9月 1日（月）

- ・事業団から、当該利用者の身元引受人に報告・謝罪するとともに、関係機関（袖ヶ浦市等）へ報告した。
- ・苦情解決第三者委員（事業団において委嘱）が、当該職員及び当該利用者に対する聴き取りを行った。
- ・当該職員を支援に携わらない業務に変更した。
- ・施設職員に対して事実関係及び当該利用者に対する当面の対応を周知した。

9月 3日（水）

- ・県において、障害福祉課職員4名が現地調査（9名（当該利用者、当該職員、施設長、マネージャー、サブマネージャー、関係職員4名）からの聴き取り及び関係書類の確認）を行った。

9月 4日（木）

- ・事業団において、事業団虐待防止委員会に報告した（外部委員4名中、3名（保護者代表等）出席）。

（外部委員からの主な意見）

- ・大変残念であり、職員としての自覚を持つよう、再度認識させるべき。
- ・職員全員で話し合い、今後の対応を図ることが必要。
- ・無断外出時に問題が生じれば当該利用者にマイナスになるので、無断外出防止のためのある程度の制止は、やむを得ないと思う。

9月 8日（月）

- ・事業団において、職員賞罰及び賠償審査委員会に諮った上で、当該職員及びその管理監督者3名に対する処分を決定した。また、理事長は報酬の自主返納を申し出た。

（処分理由）

- ・利用者を叩く行為は絶対にあってはならず、事業団を挙げて信頼回復に向け取り組む中で、本事案が社会に与える影響も極めて大きいことから、厳正に処分する。（事件発生直後に報告したことや反省していることについては考慮する。）
- ・当該職員には再教育及び定期的な面談が行われることとなった。

9月 9日（火）

- ・当該職員を事務局付きとし、支援現場から外した。
- ・事業団理事長が県健康福祉部長に本事案について報告し謝罪した。健康福祉部長は、事業団理事長に厳重に注意するとともに、本事案について十分な検証を行い、再発防止策を講ずるよう指導した。

9月10日（水）

- ・事業団から、事業団自主事業利用者及び袖ヶ浦福祉センター利用者の保護者宛に、本事案発生に関する事業団からのお詫び文、県からのお知らせ文及び本事案の概要を郵送した。

### 3 県の対応

調査において確認した内容を踏まえ、事業団に対し、9月9日付けで、健康福祉部長から厳重注意するとともに、文書による改善指導を行った。措置状況については、今後、毎月の確認調査等において進捗管理を行う。

また、千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会委員に報告し、今後、実施するモニタリングにおいて、本事案についても、当該利用者及び関係者からの聴き取り等により、確認するよう依頼した。

(1) 調査において確認した本事案の背景

- ・当該利用者が一人で外出した際には、問題が生じるおそれが高く、無断外出を防ぐよう周知されていたが、無断外出防止の具体的な支援方法は確立・共有されていなかった。
- ・当該職員と当該利用者は接する機会が少なく、当該職員は当該利用者の特性（「やめましょう」といった直接表現による声掛けは避けた方がよい）を十分に理解していなかった。

(2) 改善指導の内容

- ・本事案の十分な検証及び再発防止措置
- ・当該職員の再教育の徹底
- ・利用者の障害特性や具体的支援方法等についての情報の共有化
- ・職員の業務上、支援上の悩み等について、相談・協力し合える職場環境づくり、管理者等がこれらを把握・対応できる体制づくり

4 千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会委員のコメント

- たとえ利用者から蹴られての反射的な行為であっても、職員が利用者を叩くことはあってはいけないこと。支援のあり方に関する改善の取組みがまだ浸透しきっていないと思われ、残念。
- 個々の利用者への支援のあり方については、本事案を踏まえつつ、必要に応じ、地域の利用者の事情を知る他の関係機関も加わる形で、「利用者本位」「利用者の視点」で丁寧に検討してほしい。
- ただし、本事案は、改善に向けての取組みが行われている中での突発事故であり、このことをもって答申で出した方向性を見直す必要があるとは考えていない。
- 本事案への対応自体は、事業団として発生直後に管理者への報告・県への報告があり、直ちに、聴き取りが行われたことや、当該利用者への謝罪がなされたこと等から、事後の対応は適切に行われたと考えられる。

(参考) 施設の概要

名 称 アドバンスながうら

(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 第5条第12項に規定する障害者支援施設)

定 員 (1) 施設入所支援事業：80名  
(2) 生活介護事業：60名  
(3) 就労移行支援事業：50名  
(4) 就労継続支援B型事業：20名

所 在 地 袖ヶ浦市蔵波3312番の1

事業内容 18歳以上の知的障害者に施設障害福祉サービスを行う。入所、排泄・食事の介護等を行うとともに、地域生活に向けた生活支援と就労に必要な職業準備訓練をサービスとして提供する。

開設年月 昭和45年4月